

September 13, 2019

**【前日の為替概況】ユーロドル、3日ぶり反発 仏独、オランダ中銀総裁が QE 再開に反対**

12日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.1065ドルと前営業日NY終値(1.1010ドル)と比べて0.0055ドル程度のユーロ高水準だった。欧州中央銀行(ECB)はこの日開いた理事会で中銀預金金利の引き下げとフォワードガイダンスの変更、さらに量的緩和(QE)の再開を決めたと発表。ECBが2016年3月以来、3年半ぶりに金融緩和に踏み切ったことを受けて全般ユーロ売りが先行し、一時1.0927ドルと日通し安値を付けた。ドラギECB総裁が理事会後の会見で「著しい下振れリスクの持続を見込んでいる」と述べたうえ、ユーロ圏のインフレ率・成長率見通しが下方修正されたこともユーロ売りを誘った。

ただ、売り一巡後は急速に買い戻しが進んだ。3日に付けた約2年4カ月ぶりの安値1.0926ドルが重要なサポートとして機能したほか、QEの期間や効果などについて懐疑的な見方が広がったため急速にショートカバーが広がった。2時過ぎに一時1.1087ドルと日通し高値を付けている。市場関係者からは「ドラギ総裁の会見では、金融政策が限界に近づきつつあるという認識も見られた」「短期金融市場は年内の追加利下げはないと判断」との指摘があった。

なお、一部報道によると「フランスやドイツ、オランダの中銀総裁はQE再開に反対した」もよう。

ドル円は4日続伸。終値は108.10円と前営業日NY終値(107.82円)と比べて28銭程度のドル高水準だった。ユーロ円の下落につれた売りが先行し、21時30分過ぎに一時107.52円と日通し安値を付けたものの、前日の安値107.50円が目先サポートとして意識されると買い戻しが優勢に。「トランプ米政権は中国との貿易交渉で暫定的な合意を検討している」との報道が伝わると、米中対立が和らぐとの観測が強まり米国株が上昇。ドル円にも買い戻しが入り、一時108.08円付近まで値を上げた。「米政権は中国が知的財産権の保護や米農産物の購入を受け入れることを条件に、対中制裁関税の延期や税率引き下げを検討する」という。

ただ、CNBCが米政府高官の話として「米政権は中国との暫定合意を全く(absolutely)検討していない」と報じると米国株の失速とともに107.67円付近まで下押しした。もっとも、市場は10月上旬にワシントンで閣僚級の貿易協議に向けての米中両国の積極的な姿勢を評価し、ダウ平均が一時170ドル近く上昇。ドル円にも買いが入り、4時30分前に一時108.19円と8月1日以来の高値を付けた。

なお、この日発表の8月米消費者物価指数(CPI)は前年比で予想を下回った一方、コア指数は前月比/前年比いずれも予想を上回った。また、前週分の米新規失業保険申請件数は予想よりも強い内容となった。

ユーロ円は反発。終値は119.61円と前営業日NY終値(118.72円)と比べて89銭程度のユーロ高水準。ECBの金融緩和を受けて一時117.56円まで売り込まれたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。米国株価の上昇を背景にリスク選好の円売りが優勢となるなか、ユーロドルの持ち直しにつれた円売り・ユーロ買いが出て2時過ぎに一時119.82円と8月6日以来の高値まで値を上げた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商「暫定合意」への思惑から堅調推移か**

本日の東京市場のドル円は、米中の「善意」による「暫定合意」への期待感を受けたリスクオンムードを背景に底堅い展開が予想されるものの、来週17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)、18-19日の日銀金融政策決定会合、米中実務者通商協議への警戒感から上値は限定的か。

来週の米中実務者通商協議では、「善意」による「暫定合意」への期待感からリスクオンムードが高まっている。

中国側は、9月17日付けで米国からの輸入品への関税免除対象を拡大し、米農産物輸入の再開を企業に容認することを検討している、と報じられている。トランプ米大統領も、「劉鶴中国副首相の要請により、中国が10月1日に建国70年を祝うことで、『善意(goodwill)の意思表示』として2500億ドル相当に対する25%から30%への5%の追加関税率引き上げを10月15日まで延期する」とツイートしている。政治家に望み得る最大の美德は偽善である、と言われるが、米中政治家の「善意」の応酬の真相を見極めていくことになる。

トランプ米政権は、中国に限定的な貿易合意案を提示することを協議している模様で、知的財産や農産物購入に関する中国の約束を取り付ける代わりに、一部関税の発動を延期、あるいは撤回する「暫定合意」

が目論まれている、と報じられた。ムニューシン米財務長官は「暫定合意案」はない、と発言したが、トランプ米大統領は「中国との完全な合意を望む。暫定も検討する」と述べており、本日も米中の要人発言に要警戒となる。

米中実務者通商協議でのリスクシナリオは、ムニューシン米財務長官が為替相場と為替操作を協議すると述べていること、トランプ米大統領が香港問題を俎上に上げていることなどが挙げられる。

17-18日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、0.25%の第2次追加利下げが織り込み済みだが、トランプ米大統領はマイナス金利を要請していることで、FOMC声明やパウエルFRB議長の会見で年内の利下げの射程を見極めることになる。

18-19日の日銀金融政策決定会合では、黒田日銀総裁がマイナス金利の深堀りを示唆したことで、追加緩和への期待感が高まっていることが円安要因となる。

ドル円のテクニカル分析では、8月26日に年初来安値104.46円を付けてダブル・ボトム（104.87円・104.46円）を形成し、陽線新高値7手で三役好転の強い買いシグナルが点灯している。

## 【本日の重要指標】※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 13:30 ◇ 7月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 7月設備稼働率

### <海外>

- 15:00 ◇ 8月独卸売物価指数（WPI）
- 16:00 ◇ 7月トルコ経常収支（予想：12.4億ドルの黒字）
- 16:00 ◇ 7月トルコ鉱工業生産（予想：前月比1.4%）
- 16:30 ◎ 4-6月期スウェーデン国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比▲0.1%）
- 18:00 ◇ 7月ユーロ圏貿易収支（季調済、予想：175億ユーロの黒字）  
ユーロ圏貿易収支（季調前、予想：174億ユーロの黒字）
- 21:30 ◇ 8月米輸入物価指数（予想：前月比▲0.4%）
- 21:30 ☆ 8月米小売売上高（予想：前月比0.2%／自動車を除く前月比0.1%）
- 23:00 ◎ 9月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：90.9）
- 23:00 ◇ 7月米企業在庫（予想：前月比0.3%）
- 欧州連合（EU）非公式財務相理事会（ヘルシンキ、14日まで）
- 中国（中秋節）、韓国（秋夕）、休場

16日

### <国内>

- 敬老の日の祝日で休場

17日

### <海外>

- 10:30 ◎ 4-6月期豪住宅価格指数
- 10:30 ◎ 9月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

12日 08:21 トランプ米大統領  
「中国への追加関税発動を10月1日から10月15日に延期する」

12日 21:20  
「欧州中央銀行(ECB)は素早く行動し、10ベース利下げした」

「ECBはユーロの価値を下げ、ドルをととも強くさせ、米国の輸出をいためつけている」

「中国は我々の農産物を大量に購入してくれるだろう」

13日 06:58

「中国との完全な合意を望む。暫定も検討する」

12日 12:51 黒田日銀総裁

「安倍首相との会談は定例のもので、日本経済や世界経済について説明」

「金融政策に関しては、何も話していない」

12日 16:30 中国商務省報道官

「中国は米国の貿易を巡る措置を歓迎」

「中国と米国はハイレベル協議に関して意思疎通を続けている」

12日 17:02 ショルツ独財務相

「(独がリセッションに直面するかの質問に)独経済は頑強で、いくつかの部門は全開状態だ」

12日 19:11 ジョンソン英首相

「合意がなければ、来月末にEUから離脱する準備が来ている」

「議会閉会について女王にうそをついているという話は、全く真実ではない」

12日 19:42 コブニー・アイルランド外相

「英首相は合意をしたいことは確信しているが、近づく必要がある明確な隔りがある」

「これからの数週間で英国が変わってくれることを望んでいる」

12日 21:14 ムニューシン米財務長官

「米国は中国が米農産物を購入すると期待している」

「トランプ米大統領は米国の企業と労働者にとって良い協定ではないと合意はしない」

13日 06:21

「50年債を検討。100年債も考慮するだろう」

12日 21:43 ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁

「著しい下振れリスクの持続を見込んでいる」

「長期に渡ってより拡張的な政策が必要」

「ECBは必要であればあらゆる手段をとる用意がある」

「2019年の成長見通しを1.2%から1.1%へ修正」

「2020年の成長見通しを1.4%から1.2%へ修正」

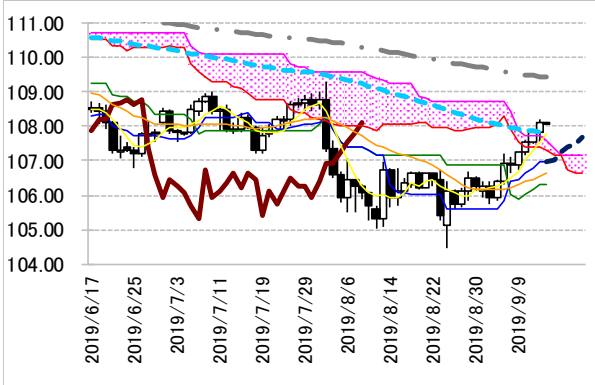
「2021年の成長見通しは1.4%で据え置き」

「(トランプ米大統領のユーロ安・ドル高に対するツイートについて)我々は為替をターゲットにしていない」

「ユーロ圏が景気後退(リセッション)に陥る可能性は低いが上昇した」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

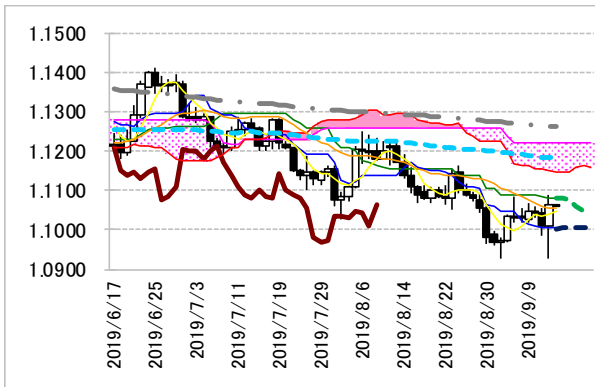


### <ドル円=調整が深めとなっても転換線が支え>

下影陽線引け。107.80円台で低下中の90日移動平均線の方向へ引っ張られるように下押し、低下中の一目均衡表・雲の上限107.60円を下回る場面もあった。しかし堅調な基調が損われることなく下げ渋り、108.19円まで上伸した。

高値圏での調整は依然として警戒される。しかし、107.76円前後で上昇中の5日移動平均線付近にとどまれば、上向きの流れが維持されていることの再確認となる。調整が深めとなっても、上昇が見込まれる一目・転換線が支えとなり、雲の下抜けは回避できるだろう。

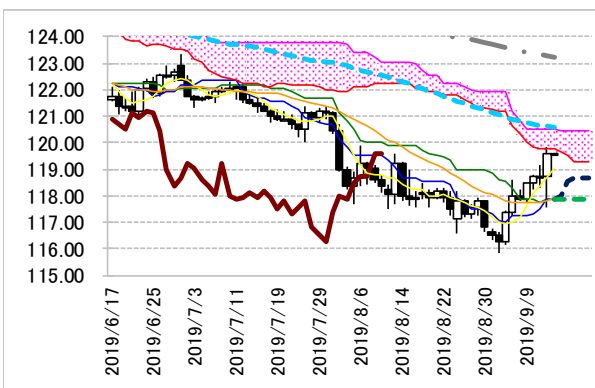
レジスタンス2	109.32(8/1高値)
レジスタンス1	108.90(8/26-29上昇幅の2層倍=E計算値)
前日終値	108.10
サポート1	107.52(9/12安値)



### <ユーロドル=日柄経過を待って基準線こなす展開想定>

下影陽線引け。年初来安値1.0926ドル目前の1.0927ドルまで下振れた影響で、一目均衡表・転換線は現水準1.0007ドルでしばらく横ばいを続ける見込み。サポートの転換線以下で下げ渋り、1.1087ドルまで反発と一目・基準線1.1079ドルを上回る場面もあった。しかし、それまで上昇が見込まれていた転換線が横ばいにとどまるなら、同線を支えに上昇し、基準線をしっかり上回って推移する展開は描けなくなった。戻すにしても、基準線の低下を待って、日柄の経過とともに同線をこなす、緩やかな水準の切り上げを想定する。

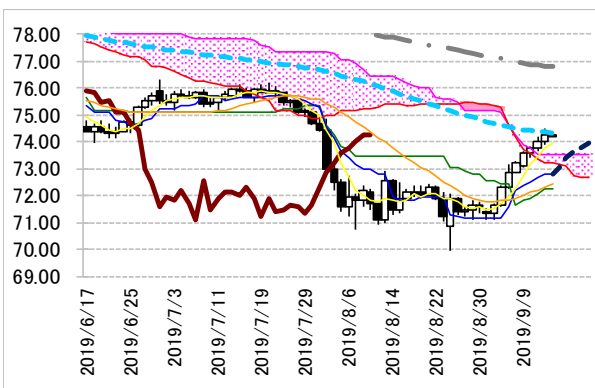
レジスタンス1	1.1116(8/27高値)
前日終値	1.1065
サポート1	1.1007(日足一目均衡表・転換線)



### <ユーロ円=16日にも転換線が基準線を上回り買い示唆に>

下影陽線引け。117.56円まで大幅な調整が進む場面もあった。しかし、一目均衡表・転換線が基準線に重なり、週明け16日にも買いサイン増加を意味する基準線の上抜けを果たしそう。堅調な流れを維持しており、5日線をすぐさま回復。一目・雲の下限119.77円を試す展開となっている。雲の抵抗で動きを鈍らせても、上昇基調が一気に崩れることはないだろう。

レジスタンス1	120.05(4/17-9/3下落幅の38.2%戻し)
前日終値	119.61
サポート1	119.03(5日移動平均線)



### <豪ドル円=下押し局面では雲の上限がサポート>

上影小陽線引け。74.32円前後の90日移動平均線が目先の抵抗となる。下押しがあっても73.53円で横ばいの一目均衡表・雲の上限が支え。下値の一目・転換線72.79円も今後の上昇角度を強めてくる見込み。サポートとして機能しそうだ。

レジスタンス1	74.86(8/1高値)
前日終値	74.22
サポート1	73.53(日足一目均衡表・雲の上限)

